

東日本大震災みやぎこども育英基金  
活用事業集



 宮 城 県

[ 令和元年度版 ]

## はじめに

東日本大震災では、多くの子どもたちが被災し、様々な問題を抱えることとなりました。

子どもを取り巻く環境や課題は時間とともに変化してきており、今後も中長期的に支援を続けていく必要があります。

宮城県では、すべての子どもたちが困難を乗り越え健やかに育っていけるよう、皆様からお寄せいただいた寄附金を基金として積み立て、子どもたちの支援に活用してまいります。

## 御寄附の受入状況

令和2年3月31日現在で、117億6,437万8,601円の御寄附が寄せられています。皆様方から温かい御支援を賜り、心より感謝申し上げます。

## 目次

### ●東日本大震災みやぎこども育英基金 活用事業

●東日本大震災みやぎこども育英基金 支援金・奨学金事業	・・・P2
●里親等支援センター事業	・・・P3
●みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業	・・・P4
●いじめ・不登校対策推進・強化事業	・・・P5
●親子滞在型支援施設事業	・・・P6
●遺児等サポート奨学金事業	・・・P7

### ●寄附者の皆様へのメッセージ集について ・・・P7

### ●東日本大震災みやぎこども育英募金 御寄附のお手続きについて・・・P8

## 東日本大震災みやぎ子ども育英基金 支援金・奨学金事業

### 事業の概要

宮城県では、両親を亡くした震災孤児が139人、両親のいずれかを亡くした震災遺児が965人となっており、合わせて1,104人（震災時大学生を含む）の子どもたちが親を亡くしています。

こうした子どもたちが安定した生活を送り、希望する進路選択を実現できるよう、未就学児から大学生等まで、月額金と入学・卒業時の一時金を支給し、長期的・継続的に支援を行っています。

※平成31年4月から月額金を増額するとともに、給付対象を大学院生まで拡大しました。

### 支給額

	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学生等
月額金 (H31.3まで)	1月につき 10,000円	1月につき 10,000円	1月につき 10,000円	1月につき 20,000円	1月につき 30,000円
(H31.4から)	10,000円	30,000円	40,000円	50,000円	自宅 60,000円 自宅外 100,000円
一時金	小学校入学時に 100,000円	小学校卒業時に 150,000円	中学校等卒業時に 200,000円	高等学校等卒業時に 600,000円 ※大学等入学時に 360,000円	

※大学入学時の一時金は、高等学校卒業時の一時金未給付者のみ

### 支援事業の対象者数（学年は震災時。令和2年3月31日現在把握分）

区分	支援金	奨学金				合計
	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学生等	
震災孤児	10人	56人	29人	44人	0人	139人
震災遺児	216人	309人	205人	209人	26人	965人
合計	226人	365人	234人	253人	26人	1,104人

●1,104人の支援事業対象者のうち、申請のあった1,084人に総額23億2,377万円を給付しました（令和2年3月31日現在）。

●震災時に生まれた子どもたちが大学等を卒業するまで、事業を継続していきます。

問合せ先：宮城県教育庁総務課

☎022-211-3613

## 里親等支援センター事業

### 事業の概要

東日本大震災により、孤児となった児童の多くは親族に里親委託されましたが、親族里親には高齢者が多く、今後震災孤児の養育が困難になることが想定されます。

また、近年児童虐待の増加等により、里親を必要とする児童は増加傾向にあります。

こうした児童を家庭的な環境で養育できる里親を確保、育成する取組を強化することが求められています。また、様々な要因により、児童が里親宅での生活を継続できなくなることも懸念されています。

以上のことから、里親支援の拠点となる「里親支援センター『けやき』」を平成29年1月に開設し、里親の確保や支援を行っています。

### ●里親支援センター「けやき」



★里親制度の普及促進（広報活動、説明会等）

★児童の里親委託促進

★委託後の里親の支援（研修、相談等）

などを行い、困難を抱える子どもたちが里親のもとで継続して生活できるよう、支援を行っています。

### ●令和元年度の主な事業内容

★里親制度説明会等

17回開催、参加者364名

★臨床心理士による里親相談会

4回、8世帯

★里親同士の交流会

27回開催、参加者延べ711名

★里親からの電話相談対応

584件



里親制度説明会の様子

令和元年度事業費：27,189,146円（うち基金活用額：13,003,146円）

問い合わせ先：宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課 ☎022-211-2531

# みやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業

## 事業の概要

東日本大震災から9年が経過しましたが、住環境や家庭の経済状況の変化などは未だに子どもたちの心に大きな影響を与えています。

震災の影響が考えられる不登校やいじめ等により学校生活に困難を抱えるようになった子どもたちに対し、学校復帰を含めた社会的自立を支援する必要があります。

しかし、これらの課題の要因や背景は複雑であり、学校だけでは解決が困難なものも多いことから、学校を外から支える仕組みとして市町村が設置・運営する「子どもの心のケアハウス」の運営支援を行っています。

●「子どもの心のケアハウス」では、心のケアスーパーバイザーを配置し、3つの機能によって複合的なサポートを行っています。



### 心サポート機能

教育相談窓口として心のケアを行います。

必要に応じて、学校での別室登校児童生徒の支援や家庭訪問による支援を行います。



### 適応サポート機能

不登校傾向にある子どもの早期学校復帰を含めた社会的自立に向けた具体的な支援を行います。



### 学びサポート機能

ケアハウスや学校の別室等で学習支援を行います。



名取市「はなもも教室」



大郷町「とらいあんぐる」

●主な事業内容（令和2年3月31日現在）

★28の市町村が学校外にケアハウスを設置・運営し、県が支援を行っています。

★支援を行った児童生徒の数は1,344人で、そのうち約1割程度が学校復帰（別室登校含む）につながりました。

今後も引き続き、子どもたちの心のケアを行い、社会的自立に向けた支援をしていきます。

令和元年度事業費：275,494,791円（うち基金活用額：215,480,000円）

問い合わせ先：宮城県教育庁義務教育課 ☎022-211-3646

## いじめ・不登校等対策推進・支援事業

### 事業の概要

本県では、いじめや中途退学者の問題、不登校児童生徒への支援、小学校の暴力行為等の諸課題があります。それらの諸課題の原因は、震災によるものをはじめ、複雑化・多様化しており、学校だけでは対応が困難な状況が続いています。

本事業では、児童生徒や家庭、学校への支援体制の充実を図り、組織的・体系的な生徒指導体制を整備するため、「心のケア支援員」、「心のサポートアドバイザー」を配置しています。

#### 心のケア支援員

- 生徒指導における教職員等の補助、校内外巡回指導を行うとともに、児童生徒からの相談に応じています。
- 心のケア支援員を配置することにより、教員と支援員の役割を分担しながら児童生徒に対応することが可能となり、不登校児童生徒への多様な支援や問題行動の未然防止、早期発見・早期対応につながっています。
- 各学校で支援員が児童生徒に寄り添い、相談活動や学習補助を行い、問題行動等に改善が見られた事例もありました。
- ★令和元年度は、問題行動等対策推進校に指定された82校に心のケア支援員82人を配置しました。（小学校：29校，中学校：21校，高校：32校）

#### 心のサポートアドバイザー

- 問題行動対策推進校の巡回訪問や指導助言、学校及び保護者等からの相談に応じるとともに、市町村や学校からの派遣要請に応じ、支援を行います。
- 義務教育課及び高校教育課に各2名を配置しています（校長OB，警察官OB）。
- ★令和元年度は、問題行動対策推進校65校と、関係機関36箇所を訪問し、指導助言を行いました。



支援員による生活指導に関する講話の様子（高校）



生徒との交流の様子（高校）

令和元年度事業費：369,723,611 円（うち基金活用額：139,031,756 円）

問合せ先：宮城県教育庁義務教育課 ☎022-211-3646

宮城県教育庁高校教育課 ☎022-211-3626

# 親子滞在型支援施設事業

## 事業の概要

この事業は、震災等を契機とした親の経済的事情や病気、児童虐待など、様々な事情で家族と離れて暮らす子どもが、その子どもにふさわしい養育環境で過ごせるよう委託事業者と児童相談所が連携して支援を行うものです。

●以下の2つの事業を実施しています。

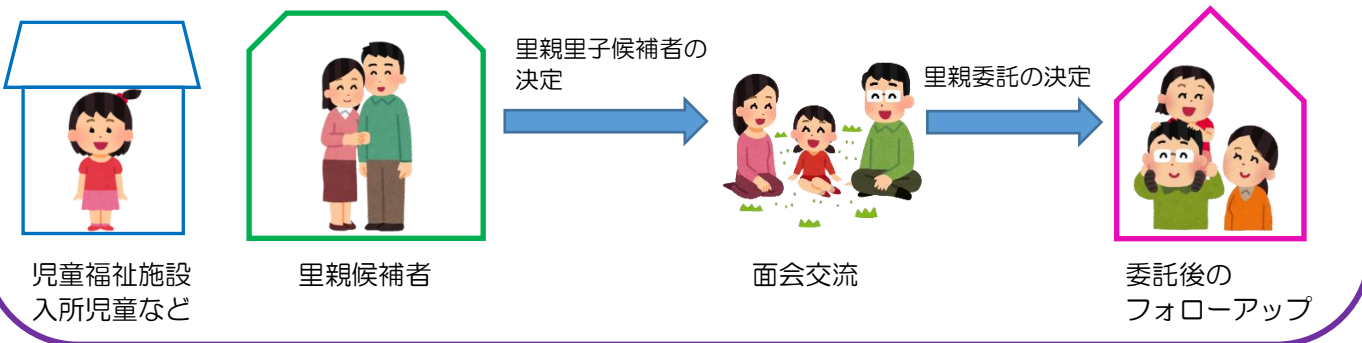
### 家族再統合支援事業

様々な事情により離れて過ごしている親子向けに、家事訓練や宿泊訓練等を行い、親子関係の改善を図ります。児童相談所はその結果を踏まえて、家族にとって最も望ましい形態を見つけられるよう、今後の家族のあり方を検討します。



### 里親マッチング事業

里親を必要としている子どもと、里親候補者との面会交流等を行います。子どもと里親候補者との交流を観察した上で関係性の評価を行い、児童相談所はその結果を踏まえて、里親選定を検討します。令和元年度は6件の委託が成立しています。



### ●令和元年度の主な業務内容

- ★利用家族数 10 家族
- ★事業利用回数 延べ 63 回  
(通所・宿泊合計)
- ★事前訪問調査 58回
- ★関係機関向け事業説明及び研修会の実施  
2回 参加者56名



親子が過ごす居室

料理等を訓練できる  
ミニキッチン



令和元年度事業費：22,580,118 円（うち基金活用額：9,570,118 円）

問合せ先：宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課 ☎022-211-2531

## 遺児等サポート奨学金事業

### 事業の概要

遺児等サポート奨学金は、令和元年度から始まった新しい奨学金制度です。

東日本大震災以外の要因により保護者を亡くされた小・中学生が、安定した学校生活を送り、希望する進路を選択できるよう、御寄附の一部を活用して月額金と卒業時一時金を支給しています。

### 支給額

種類	月額金	小学校卒業時一時金	中学校卒業時一時金
金額	10,000 円	150,000 円	200,000 円

給付決定者数（令和2年3月31日までに給付を行った人数）

種類	小学生	中学生	合計
月額金	275 人	227 人	502 人
卒業時一時金	36 人	77 人	113 人

令和元年度給付額：77,870,000 円

問合せ先：宮城県教育庁総務課 ☎022-211-3613



### 東日本大震災みやぎこども育英募金

#### ～寄附者の皆様へのメッセージ～

東日本大震災みやぎこども育英募金  
寄附者の皆様へのメッセージ



(表紙イメージ)  宮城県

●寄附金を活用した支援金・奨学金をお届けした子どもたちや保護者の方々から寄せられた寄附者の皆様へのメッセージを紹介しています。

●感謝の気持ちや現在の状況などが、思い思いの形でつづられております。

●下記 URL からダウンロードいただけます。  
是非ご覧ください。

<https://www.pref.miyagi.jp/site/donation-for-children/message.html>

問合せ先：教育庁総務課 ☎022-211-3613



## 東日本大震災みやぎこども育英募金 御寄附のお手続きについて

1 「寄附申出書」に必要事項を御記入の上、宮城県教育庁総務課宛てに FAX、郵送又は電子メールで送付をお願いします。

- 「寄附申出書」の様式は、下記 URL からダウンロードいただけます。

<https://www.pref.miyagi.jp/site/donation-for-children/method.html>

2 併せて、金融機関において下記口座への寄附金の振込をお願いします。

受取人口座名義	振込先銀行名	口座番号
東日本大震災みやぎこども育英募金 宮城県知事 村井 嘉浩 （ ヒガシニホンダイシンサイ ミヤギコドモイクエイボキン ミヤギケンチジ ムライヨシヒロ ）	七十七銀行 (シチジュウシチギンコウ) 県庁支店	普通預金 5518181

※七十七銀行各店の窓口での振込については、手数料が免除されます。

※ATMでの振込の場合には、手数料がかかりますので御注意願います。

※郵便局からのお振込みには、お客様の郵貯銀行口座が必要です。

詳しくは最寄りの郵便局にお問い合わせください。

3 「寄附申出書」の受領及び振込確認後、受領書を発行し、郵送します（御希望される場合）。

- 受領書の発行には最長で2週間程度お時間をいただいています。

お急ぎの場合には、宮城県教育庁総務課まで御連絡をお願いします。

（寄附のお手続きに関する問合せ先）

宮城県教育庁総務課

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL 022-211-3613

FAX 022-211-3699

E-mail kyoikgy@pref.miyagi.lg.jp

温かい御支援

ありがとうございます



©宮城県・旭プロダクション



宮城県教育庁総務課

〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL 022-211-3613

FAX 022-211-3699

E-mail [kyoikgy@pref.miyagi.lg.jp](mailto:kyoikgy@pref.miyagi.lg.jp)